

既存の配線を使う
倍線化システムで

配線革命!

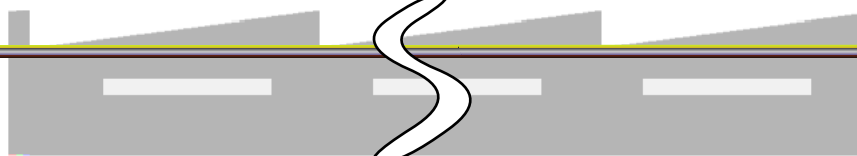
特許第2117602号
信号送出回路
特許第5120579号
直流電力供給を伴う信号伝送回路
特許第5939698号
アナログデジタル信号混合伝送装置
特許第6427700号
信号伝送アシスト装置
アメリカ特許 US 10,027,406,B2
A/D SIGNAL MIXING TRANSMISSION

省配線伝送のユニバーサルラインが更なる耐ノイズ性能を具備して機能と用途が大きく拡がりました。

ポンプ故障

汎用の電線を多重化する技術で

ポンプ故障表示



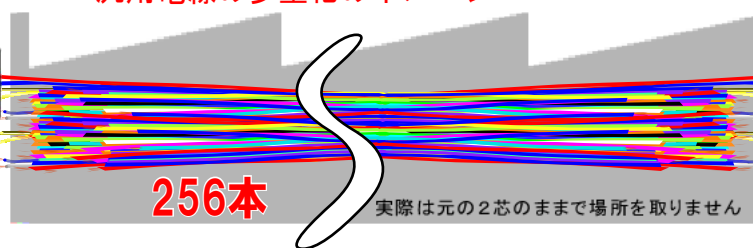
例えば広い構内を貫通しているこのような既存の配線が有効利用できます。

1対の既存の配線が[伝送化ユニット]をつけることで256本+コモン線とほぼ等価に使えます。

汎用电線の多重化のイメージ

ポンプ故障

ポンプ故障表示



伝送化装置
(メイン)

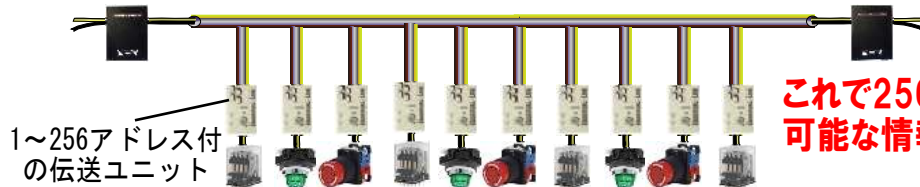
伝送化装置
(サブ)

256本

実際は元の2芯のままで場所を取りません

実際の配線は1対の配線をそのまま自由に分岐して使用

伝送化装置で多重化した後は番号を付ける伝送ユニット経由で256CHのN:Nの情報伝送ができます。



これで256接点、2000計測まで
可能な情報幹線が確立しました!

■ 幹線工事が不要で必要な工場内の情報が一元管理ができます。

ベースの技術は30年間の連続稼働実績のあるユニバーサルラインで各地の過酷な環境で活躍しています。

デメリット

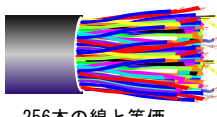
256信号の増設で最大0.5秒の遅延が発生します。
(高速制御は不可、但し0.5秒間で256台の個別の監視と制御が可能)

メリット

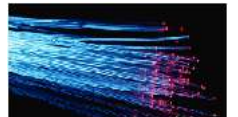
既存の重要な監視信号を1秒ごとに断線監視の機能により見守りますので更に安心です。



既存の配線が256倍の用途に使えますので多点の故障監視や稼働管理に使えます。



各端末内の高性能CPU処理により伝送距離は光ファイバ並みの10Km伝送が可能です。



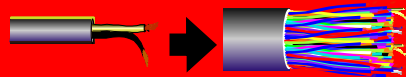
既存配線より耐ノイズ性能がアップしますので特別高圧線の近傍でもシールド不要です。



既存の配線がそのまま無線では実現しない長期安定したIoTの幹線に変身します。



既存の配線を256倍に使う倍線化システム



倍線化で256接点伝送が可能です。それを組合せて2000点までの温度等の各種の計測が出来ます！

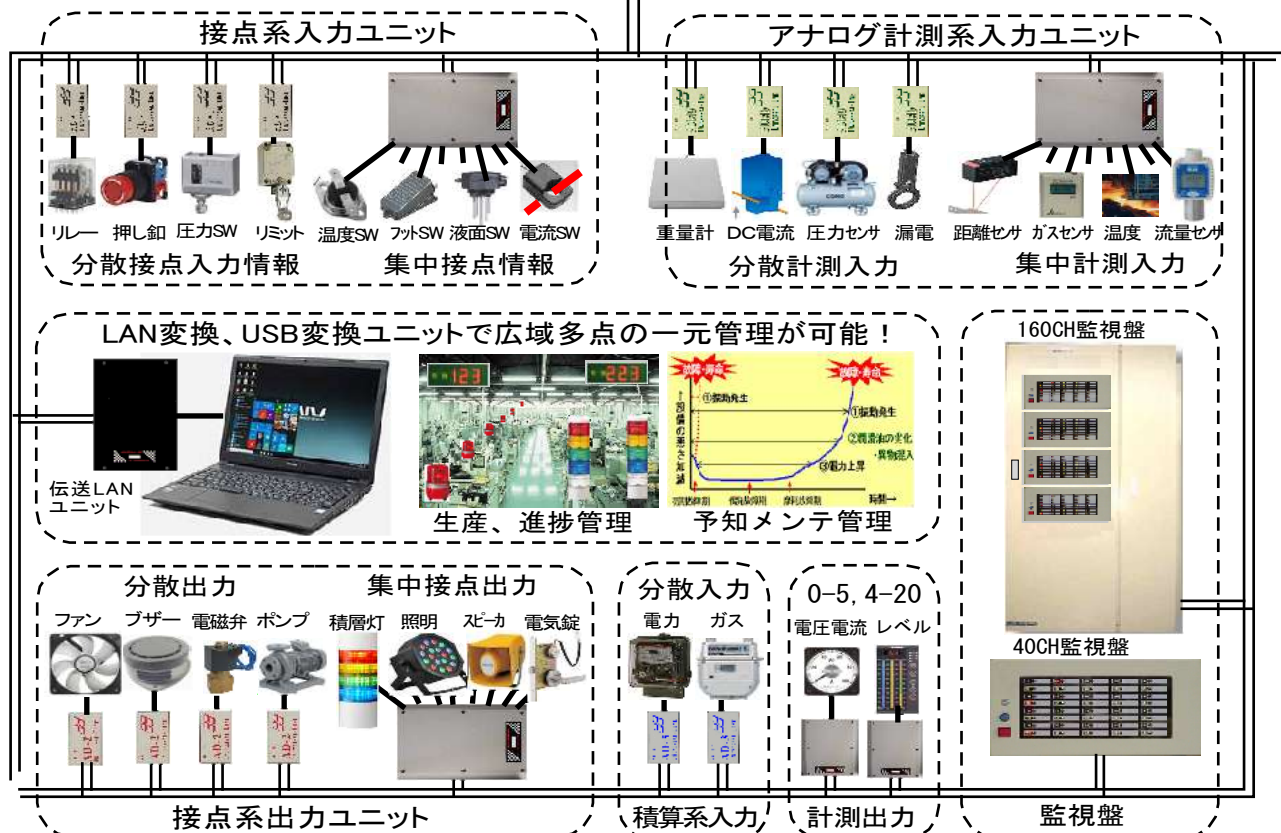


倍線化の伝送の特徴です。

- ・ノイズに非常に強い！
- ・配線方法が制限無く自由
- ・分岐数、分岐長に無制限
- ・使う電線の種別不問です
- ・動力と平行配線可能です

工場等広域の一元管理

倍線化の応用



分散入力、分散出力タイプは端末電源が不要です。

上の図はほぼフルラインナップですが、1点入力⇔1点出力のシンプルな構成から増設から徐々に拡大できます。

倍線化はほとんどの既存配線が使用できます！

倍線化が可能な既設電線

(警報線、制御線等高速制御線以外で下記の電線が使えます。)

VCT, VCTF	VFF	MVVS
CVV, CVVS	VVF	IV, KV, VSF
CPEV	AE	同軸空き線

使用出来ない既設電線

(パワーを同時に送ることはできません)

3相の動力線 (空き線は可)	AC100V電源線 (空き線は可)
データ線の空き線	音声回線の空き線
高速の制御線	絶縁不良の線

デモ機を用意していますので過酷な現場で一度お試しください。

豊中計装(株) 06-6336-1690